

### 求める学生像（求める能力・適性等）

本学部を志望する学生には、法学・政治学を専門的に学ぶための前提として、現代社会の諸問題への関心はもとより、歴史・科学・文化・外国語などの基礎教養に裏打ちされた広い視野をもって勉学に取り組む意欲、自己の問題関心に即して主体的に学ぶ姿勢を期待しています。具体的には、

1. 歴史や社会問題に関心を持ち、解決すべき課題を自分で発見する力
2. 必要な情報を各方面から収集する技能・語学力
3. 情報の分析・加工を通じて自分なりの視点・意見を作り上げようとする意欲
4. それを他者の前でわかりやすく、論理的・説得的に説明する力
5. 他者との議論を通じて意見や価値観の多様性を学び、自己反省の機会を持って柔軟に修正案・改善案を見つける姿勢
6. 法的知識と語学力を身に着けてグローバルな舞台で活躍しようとする意欲

の6つです。本学部は、みなさんの持つこれらの潜在能力を伸ばし、将来への確かな地歩を築く場を提供します。

### 入学者選抜の基本方針（入学要件、選抜方式、選抜基準等）

本学部では、教育目標実現に必要な基礎能力の確認を主眼とし、同時に多様な学生を受け入れることができるよう、複数の選抜方法を採用しています。

1. 一般入試（前期日程）では、主要科目全般の総合的な達成度を重視して、国語・数学・外国語の試験を課し、大学入試センター試験の成績と併せて、入学者を選抜します。
2. 一般入試（後期日程）では、主要科目全般の総合的な達成度を評価することに加え、柔軟な理解力、的確な分析能力、論理的な表現能力等を測るために小論文（英文を含む）を課しています。この結果と大学入試センター試験の成績とを併せて、入学者を選抜します。
3. AO入試Ⅱでは、主要科目全般の総合的な達成度に加えて英語能力を重視し、英語学力試験及び日本語と英語による面接試験を課し、センター試験の成績と併せて、入学者を選抜します。
4. この他、帰国子女や私費外国人留学生を対象とする選抜方法も採用しています。帰国子女入試では、基礎学力検査に加えて、面接を実施します。私費外国人留学生入試（4月入学）では日本留学試験及び本学の日本語試験の成績に加えて、面接を行います。

各選抜に関する詳細は、募集要項をご覧ください。